

神戸薬科大学同窓会広島支部

桔梗ひろしま



掲載内容(一部)

- 1 副支部長、同窓会会長 ごあいさつ
- 2 事業報告・会計報告ほか
- 3 恩師からのお便り・鑄方先生を偲んで
- 4 5 市民公開講座
- 6 7 研修会報告
- 8 研修会案内・レクリエーション予告

編集・発行/神戸薬科大学同窓会広島支部 発行責任者/米田恵子 編集・印刷/株式会社ソージャ・エー・ディー

一步一步、あゆんで

神戸薬科大学同窓会 広島支部
副支部長 洞 容 子 (28回)



日頃より、支部活動にご理解・ご支援いただき有り難うございます。現在、広島支部では研修会をはじめ「桔梗ひろしま」の発行・懇親会・レクリエーションを行っています。

研修会では「私達が本当に受けてみたい研修会」をめざし、昨年度は、4回の連続研修会と公開講座を

行いました。連続研修会は初めての試みでしたが、是非やってみたいという生涯研修企画委員の熱い思いとそれに快く応えてくださった大西順子先生(27回)の思いもあり実現できました。糖尿病の知識を深める事ができたと、参加者の皆様から好評をいただきました。

また第2回目になる公開講座は、長年、在宅医療で700人以上の看取りをされてきた長尾和宏先生(27回)の声を、医療関係者はもちろん、広く一般の方々にも届けたいという思いから始まりました。同窓生の絆に助けられながら、お陰様で沢山の方々に来ていただき広く学ぶ事ができました。

これからも薬剤師として新たな知識を学ぶと共に、同窓生の絆が尚一層深まっていく事を願いつつ、取り組んで行きたいと思っております。来年度は、一般公開されていない武田薬草園に行くスペシャル企画をしております。

今後ともよろしくお願いたします。

~~~~~

## ごあいさつ

神戸薬科大学同窓会 会長  
足立 昌子 (14回)



ベンゼン池の周りが整備され今年、ひときわ涼風に和みました。同窓生の皆様にはお健やかに過ごしのことと存じます。

今年3月には、6年制薬学教育を受けた第四期生の卒業生248名が社会へ羽ばたき、同窓生は16,907名となりました。

平成28年に同窓会は創立80周年を迎えます。総会・祝賀会を平成28年10月30日(日)に本学のききょう記念ホール並びに80周年記念館(6号館)で行います。28年4月発行の会報に案内・振込用紙を挟み込む予定です。是非ご出席下さい。

現在、同窓会には全国に17支部があります。その殆どの支部が総会・研修会への若い会員の出席者が減少しているという問題を抱えています。広島支部では、すでに2回の市民講座を開催し大成功を収めています。次々と新しい事業を展開されておられる広島支部の活気に溢れた活

動は他の支部からも注目されています。また会員以外の参加者が多いことも広島支部の特徴です。役員の方々が、それぞれの持ち場で全力投球で、事業を展開されておられますことも大変頼もしいことです。役員の方々のご努力があつてのことだと思っております。17支部の手本となる支部です。更なる広島支部のご発展を祈念しております。

~~~~~



平成26年10月19日▶
広島国際会議場
市民公開講座会場にて

ひろしま桔梗研修会

市民公開講座 開催

来場者442名

■平成26年10月19日(日)
■広島国際会議場ヒマワリ

避けては通れない死を見つめて
57回 宗像麻理奈



平成26年10月19日「ひろしま桔梗研修会」としての公開講座「平穩死って？ 私らしく生きるために」が開催されました。

第一部は尼崎でクリニックを開業されている「ドクター和」と長尾和宏先生のお話でした。平穩死とは何か、逆に平穩に死ぬないときはどんな場合なのか、映画を上映したりしてわかりやすくお話してくださいました。医療従事者や家族に対して意志表示をするための手段として、「ACP」や「リビングウィル」というものがあることを教えていただきました。

私は初めて聞く言葉でしたが、欧州や米国では浸透しつつある概念だということを知り、驚きました。先生は日本でもこの概念が浸透するように、その大切さを呼びかけてくださいました。

第二部は先生に質問をする時間でした。看護師・薬剤師・介護士の方からの先生への質問に、先生は熱心に答えてくださいました。

私は普段薬剤師の仕事をしているため、どうしたら健康になるかということに考えが向いて、死については億劫になりがちでした。しかし、今回の講演を聞いて治療と死は密接な関係にあるので、最期の時をどのように穏やかに迎えるかということ普段から考えておくことは大切だと思いました。



講演中の長尾先生



第二部、質疑応答の様様



長尾先生の著書

長尾和宏先生の紹介

大学病院などに勤務。そこでさまざまな医療行為＝延命治療によって苦しい最期を迎える患者さんを診て「人はなぜ、死ぬ時にここまで苦しんでいけないのか」という問題意識を持つようになった。阪神・淡路大震災で被災した人々を治療した体験から「地域の人々に寄添う『町医者』」になる決意のもと尼崎市にて長尾クリニックを開業。

「平穩死」って？ 私らしく生きるために



講師 長尾和宏先生
医療法人社団裕和会 理事長
長尾クリニック 院長



講演会場全景：広島国際会議場ヒマワリ

「自分らしく最期を」の思い
32回 倉本珠江



ひろしま桔梗会の市民公開講座 第2弾「平穩死って？ 私らしく生きるために」と題して、20年間にわたり在宅医療で700人以上の看取りをされてきた長尾和宏先生をお迎えして開催することが

できました。研修企画委員の諸先輩方の努力が実りました。外来医療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指し、取り組んでおられる長尾先生の声を医療関係者は勿論、広く一般の方々にも届けたい!と思い、企画しました。

第一部は長尾和宏先生の「平穩死 10の条件」の講演、第二部は長尾先生を囲んで話しましょう!! 先生への質問の時間を作りました。先生を囲んで話やすく、質問しやすく考え二部構成でした。

避けては通れない死を見つめ、ひいては、自分自身、どう生きるかを考えるきっかけにしていきたい!「平穩死」のテーマです。介護関連の方から賛同の声も聞こえてはくのですが、一般の方にどれだけ集まっていたか不安もありました。しかし、当日の講演では、本当に長尾先生のお人柄、話に引き込まれ明るく和やかに、多くの参加者に興味深く聴いていただくことができました。また、講演後に、「療養中の義父の胃瘻のことを悩んでいたけど講演内容に共鳴し義父の日頃の言葉を思い出しました」と参加者からの声を聞いたりするとなんだかほっとし、嬉しく市民講座の意義を改めて感じました。

「自分らしく最期を」の思いがあって実現し、皆で協力して開催できたこと、終了した時の安堵、米田支部長と一緒に感動いっぱい忘れられません。長尾先生、支部同窓の皆さんのご協力のお陰です。ありがとうございました。



当番25回の皆さん



入場風景



受付風景



頼もしい男性役員



会場より、原爆資料館をのぞむ



総司会の倉本さん



車椅子で、かけつけられた先輩会員



1F入口のサイン



第二部、講師に質問する来場者

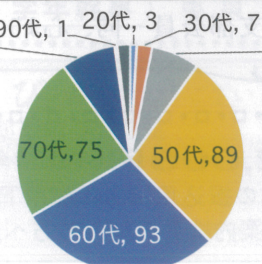


第二部司会の谷口さん、森川さん

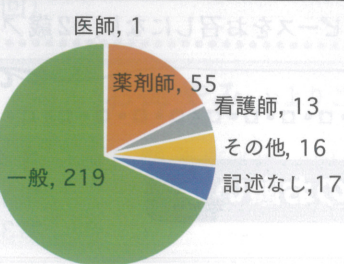
公開講座 アンケート

(442人中 321人回答)

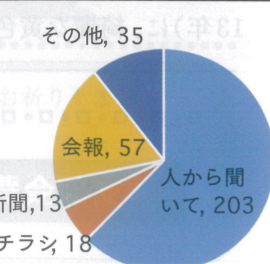
来場者の年代



来場者の職業



来場者のきっかけは?



来場者のご感想等

- ・医療の発展により死亡者数は減るだろうと思っていたのに、これから多死社会を迎えるということに驚いた。
- ・人間の尊厳について考えることができた。
- ・延命治療について考えさせられました。
- ・自分の生き方について考えていきたい。
- ・終末期を考える機会を頂けて感謝。
- ・終末期を自分で感じて自分で決めることの大切さがよくわかりました。

- ・とても共感した。枯れる死に方をしたい。
- ・母の介護の助けにしたい。
- ・「死」についてもっと身近に考えておくべき。
- ・「生きる」ということについての考え方、「死」についての考え方が少し変わった。
- ・家族とも話してみようと思った。
- ・明るい講義で重要なお話をして下さって勉強になった。